



〒965-0871  
会津若松市栄町2-14  
レオクラブガーデンスクエア5F  
☎(0242)93-7950 ■FAX(0242)85-6863  
■E-mail info@terakoyahoujyousha.com

寺子屋方丈舎は、学校外の子どもの学びの場所として1999年に設立したフリースクールです。現在、7歳から21歳までの若者を受け入れています。



事例② 「学校から卒業アルバムの写真を撮りにきてくださいと言われたのですが…」

卒業シーズンになると、卒業アルバムの『写真撮影問題』がおきます。まじめに考えると「どうしたらいいのかわからない」と混乱します。子どもに伝えると「嫌だ」と断られることがほとんどではないでしょうか。本人の気持ちを優先して対応することが、とても大事です。学校にゆけないのに、アルバムに掲載される事のつらさを考えると、アルバムに掲載しないという選択肢もあります。親・本人ともに周りに合わせ「ねばならない」という発想を一回捨てると、本人本位の対応ができるようになります。



▲不登校経験者に聞く対話プログラムの様子

事例③ 「卒業式に出ないと、中学の卒業資格はもらえないのですか？」

結論的に言えば、卒業証書が手元になくとも、卒業はできます。親が受け取りに行ってもいいのです。「学校には来れなかつたかもしれないけれども、今後の人生が本人にとつてより良きものになるように」と、先生は思っています。

卒業式にも出たくとも出られないと正直に伝えていただくことで、柔軟な提案を受けることも可能です。

冒頭で述べましたが、不登校は、あなた一人だけの問題ではありません。そして、フリースクールや親の会には、これまでの数十年の経験値が多くあります。一人で悩まず、ぜひ過去の経験値に触れてみてください。そもそも、学校に行く、行かないという「評価」から、自由になることで、あなたは救われます。

自分子どもを一番大切に考えると、本当に大事にしなければならぬ対応が、スッと見えてくるようになります。

(つづく)

# 子どもを受け止める親のために(4)

特定非営利活動法人 寺子屋方丈舎 大関 勇氣

## あなたの「悩みが」とけること

不登校児童生徒の親の悩みのほとんどは、全国で毎年16万人の親が経験した悩みです。どの不登校の経験も、「個人」の「秘密」になっているので、共有されません。病院に行っても、部屋から無理やり引きずり出しても、かえって子どもを傷つけます。

NHKラジオの教育相談で、心理カウンセラーの方が「近くの親の会に参加してください」というのは、そこに経験知があるからであり、不登校の親の悩みの7割以上はこの経験値の共有で、自分の悩みではなく、みんなの「悩み」であったことに、気がつきます。学校でも、フリースクールでも、塾でも不登校の経験値の共有を行えば、多くの問題がとけてゆきます。

事例①「学校に、毎日欠席の連絡は

必要ですか…」

毎日の学校への欠席の連絡をする事が、親にとってストレスとなっっています。学校側は、生徒の安否確認の必要上（生徒指導の二環）連絡を入れるという方法をとっています。学校からの「学校へ来るよう指導してください」という意図だと誤解する保護者も多くいます。学校にゆけない罪悪感が、親の「どうしたらいいのかわからない」状態をつくります。親の姿を見て、子ども本人は、「なんだか悪いことをしているのでは」と、自分を追い詰めてしまうこともあります。

多くの学校では、出席連絡が親のストレスになっていることを伝えると「連絡の回数が減少」します。自分の辛さも含めて、受け身ではなく積極的に伝えることで、改善することが多いです。フリースクールへの通学で、出席日数扱いをする学校もたくさんあります。